



学校だより
ながや

令和4年度 2月号
令和5年 1月31日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

啐啄同時（そったくどうじ）

副校長 菅原 明子

学校の梅もようやく蕾が膨らみ始めました。鳥のさえずりも以前より多く聞こえるようになり、寒い季節の中にも少しずつ春が近づいていることが感じられます。校内でも1年のまとめの時期となり、どの学年の子どもたちも今年度積み上げてきた学びを生かしての学習に取り組んでいます。また、進級に向けての心構えや引き継ぎ等、様々なところで次年度への準備も始まっています。

さて、来年度への準備が行われ始めたこの時期になると思い起こす言葉があります。「啐啄同時（そったくどうじ）」という言葉です。「啐（そつ）」は、卵の内側の雛鳥が、まきに出ようとするときに声を発して告げること。「啄（たく）」は、親鳥が外側から殻をつついて雛の出るのを助けることを意味しています。つまり、雛鳥が内側からつつく「啐」と親鳥が外側からつつく「啄」とによって、殻が破れて中から雛鳥が出てくるのです。この「啐」と「啄」は、同時に行わなければなりません。早すぎても遅すぎても雛はうまくかえられないだけでなく、親鳥が雛の柔らかい体をつついてしまう危険もあるため、好機は一瞬であるといえます。だからこそ、自らの学びを振り返り、進級に向けての準備に取り組むこの時期は、子どもにとって大切な時間であると感じています。

子育てにおいても、同じことが言えるのではないのでしょうか。どの親御さんも「健やかに成長してほしい」「子どもの力を伸ばしたい」と日々願っていらっしゃると思います。私たち教職員も同じ気持ちです。そして、どの子どもも自ら伸びようとする力を秘めています。しかし、目の前の子どもの心の準備や学びの段階によって、同じ言葉かけや指導であってもその効果はまったく違ってくるともいえます。つまり、「啐啄同時」とは、子どもの心身の状態と大人の指導が一致したときに高い効果を生むと捉えることもできます。だからこそ、私たちは子どもを信じてあせらず見守るとともに、子どもが自分の殻をやぶって外に出ようとする好機を見逃さずに支援していきたいと思います。

本校では、今後も学年や学級、個々の発達や成長段階に応じたきめ細やかな指導に努めてまいります。今月は、今年度最後の授業参観及び懇談会があります。保護者の皆様には、子どもたちの成長した姿や成長する上での課題を確認し、温かい言葉かけをしていただけるとありがたいです。今後も皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。